# 極域科学専攻履修モデル　博士課程（3年次編入学）

教育研究指導分野：極域宙空圏分野
研究課題：オーロラ現象に対する中層大気の応答に関する研究

| 年次 | 総合教育科目 | 単位 | 研究科共通基礎科目 | 単位 | 概論科目群 | | 単位 | 専門科目群 | 単位 | 研究指導科目群 | 単位 | フィールドワーク他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | フレッシュマンコース | 2 | 先端地球科学通論Ⅰ<br>先端地球科学通論Ⅱ<br>宙空圏計測学 | 2<br>2<br>2 | | | | 宇宙電磁力学<br>オーロラ物理学<br>超高層大気波動基礎論 | 2<br>2<br>2 | 極域科学特別研究ⅢA・ⅢB<br>極域科学特別演習ⅢA・ⅢB | 4<br>4 | ロングイヤビエンにて冬期にオーロラ光学観測とEISCAT同時観測実験に参加 |
| | ＜到達目標＞博士論文の研究テーマ及び研究計画を決定する。フィールドワーク等により、博士論文テーマに沿って必要なデータ取得を行うとともに、データの解析を行う。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。 | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | 磁気圏物理学 | 2 | 極域科学特別研究ⅣA・ⅣB<br>極域科学特別演習ⅣA・ⅣB | 4<br>4 | |
| | ＜到達目標＞博士論文作成に必要なデータ取得を完了させ、データの解析を進める。さらに、博士論文の執筆に入る。また、博士論文に関係する内容で、査読ある学術誌に論文を投稿する。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。 | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | 極域科学特別研究ⅤA・ⅤB<br>極域科学特別演習ⅤA・ⅤB | 4<br>4 | |
| | ＜到達目標＞博士論文の執筆を進める。予備審査の段階までに、論文の完成度が博士論文の水準の80%までに至っていることを要する。予備審査後、本審査出願までの間に予備審査委員会による指摘事項をクリアーし、博士論文を完成させる。 | | | | | | | | | | | |

| 単位数 | 2 | 6 | 0 | 8 | 24 |
|---|---|---|---|---|---|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

| 取得単位数 |
|---|
| 40 |
| 修了必要単位数 |
| 8 |

（ただし、必ず②を4単位含むこと。①は2単位を限度に修了必要単位数に認める。この他、他大学の単位互換制度による取得単位を一定範囲で修了必要単位数に含めることが出来る。）